

平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	地域活性化・次代の担い手育成事業
対象地域	川崎市、東京都杉並区、埼玉県秩父市、福島県天栄村
対象地域の概要	  【位置図】   【タワー型マンションの建設により過密化が進む小杉地域】
提案内容の概要	① 青少年の育成：地域の伝統と新しさを織り交ぜ、さまざまなリズムや形式を駆使して新しい地域文化を創造する「舞祭（まいまつり）」の取り組みを通じて、子どもたちの地域や社会への参加の機会を促進することによって「自己肯定感の向上」を図ります。 ② 地域コミュニティの活性化：舞祭の取り組みを通じ多様な主体と連携・協働することによって、一過性でない持続的な活動の定着と活動の担い手となる人々とのつながりを拡大し、新たな地域の活性化の流れとともにコミュニティの創生を図ります。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	① 川崎市の町内会・自治会の加入率は約70%で、この20年で10ポイント減少しており、地域コミュニティの減衰が進行しています。加入率減少の背景には、若年世代の増加、ライフスタイルの多様化などが挙げられていますが、川崎市の人口は2025年には146万人まで増加すると予想されており、手をこまねいていれば加入率低下に拍車がかかる懸念があります。 ② 川崎市子どもの権利に関する実態・意識調査（平成20年10月3年毎調査）によると、前回調査（平成17年）では高かった「自己肯定感」が低下している結果が報告されています。また、「自己肯定感」の高い子どもと低い子どもの相違点として、高い子どもは比較的、地域活動への取り組みに楽しさを感じており、低い子どもは、特に「学校での勉強」に夢中になれておらず、相対的に一人遊びを好む傾向がうかがえています。 ③ 子どもたちの地域活動への参加状況については、川崎市青少年意識調査（平成18年3月5年毎調査）でみると、「参加していない」は90%強で、「参加している」は7.2%となっています。子どもたちの参加状況は、10年前の調査の14.9%から半減をしており、子ども会やボーイスカウトなどの青少年育成団体の取り組みが辛うじて参加を支えている状況下にあります。 ④ 文部科学省がまとめた「平成20年度全国・運動能力、運動習慣等調査」では、川崎市の小学生男子は8種目中5種目が全国平均を下回り、小学生女子は7種目で下回っています。さらに、中学生男子は9種目中8種目を下回り、中学生女子の低下は著しく、全種目で下回っています。 ⑤ 町内会・自治会の現状、子どもたちの「自己肯定感」「社会参加」「運動能力等」の低下は、社会情勢の変化の進展が地域住民の生活を支える機能に大きく影響していることがうかがえます。

(2) 活動内容の案	活動① : 区民祭や各種イベントでのデモンストレーションを実施するとともに、ダンスワークショップを各区で開催し活動の普及・啓発を行います。 多様な主体との連携・協働を行い継続性ある地域に定着する活動とするため、区民祭や各種イベントでデモンストレーション実施とダンスワークショップを各区7箇所で開催し、チームの育成・支援を図り、活動の普及・啓発を行います。
	活動② : 「第36回川崎みなと祭り」において「かわさき舞祭」を開催します。 川崎市民に長く親しまれている、川崎みなと祭りにおいて子どもが主役の舞祭を開催し、子どもたちの社会参加を実現します。また、この取り組みを通して一過性でない持続的な活動の定着と活動の担い手となる人々とのつながりを拡大し、新たな地域の活性化の流れとともにコミュニティの創生を図ります。また、他都市から参加するチームと交流を行うことによって、活動の展開・深化を図ります。
	活動③ : 他地域との経験交流を実施します。 対象4地域で開催される「舞祭」に参加し、子どもたちやチームスタッフ(保護者等)の経験交流を進め、チームの主体性・自立性の醸成を図ります。
	活動④ : 学校教材として新たな楽曲の制作を行います。 子どもたちの社会参加活動を促進する取り組む対象物として、学校教材としての舞祭曲を制作します。新たな楽曲は、地元川崎に縁の深い(川崎出身の坂本九さんなど)曲を使用し、新曲制作に伴いダンスワークショップを主催運営し、普及を図ります。
応募団体名	アレアファールかわさき
リンク	http://www.areafare.com/
部局／担当者名	事務局長 青山 正彦
連絡先	044-366-5069 / mail@areafare.com
推薦市町村名	川崎市